

令和元年度 厚生労働科学研究費補助金 外国旅費 予算流用 理由書

研究事業名 障害者政策総合研究事業
 研究課題名 聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育手法の開発等に資する研究
 研究代表者 高橋 晴雄

直接経費（変更前）							間接経費
直接経費合計	物品費		人件費・謝金		旅費 (外国旅費)	その他	
	設備備品費	消耗品費	人件費	謝金			
17,898,000	2,000,000	7,798,000	1,300,000	1,300,000	4,800,000	700,000	
					(2,000,000)		

直接経費（変更後・実績額）							間接経費
直接経費合計	物品費		人件費・謝金		旅費 (外国旅費)	その他	
	設備備品費	消耗品費	人件費	謝金			
16,567,721	1,703,440	4,524,828	1,084,280	335,400	7,987,754	932,019	
					(4,798,070)		

※内12,865円自己資金含む

■訪問先の変更に関する経緯・理由について。

当初、交付申請書では、令和2年1月15日～19日の日程にて、高橋、城間、北、吉田の計4名で、オーストラリア メルボルン大学リハビリセンターへ訪問予定であったが、令和2年1月6日～11日の日程にて、高橋、内藤、城間、南、中田、山本の計6名でアメリカUCLA耳鼻咽喉科およびジョントレーシークリニックへの訪問に変更を行った。
 変更理由は、UCLA耳鼻咽喉科石山明教授が小児難聴の診療とともに療育にも精通し、難聴児の療育システム構築の実績があり、より有意義な視察ができると考えられる。またジョントレーシークリニックはカリフォルニアでの多職種連携による幼小児難聴の療育の中心的存在で、UCLAでの難聴医療との関連等も重点的に学べる利点があると考えられた為。

また申請時に記載を失念していたが、高橋は令和元年11月24日～26日の日程でベトナムホーチミン市で開催されるIFOS Otology Course(世界耳鼻咽喉科学会 耳科学講座)について、研究成果発表及び本研究に於いても役立つ情報についても能率よく収集できると考えられた為、当該学会へ出席し、人工内耳について講演を行うとともに、世界の人工内耳前後の療育についての情報収集を行うこととした。

■海外旅費への予算流用に伴う、予算執行計画への影響結果について。

聴覚・人工内耳関連の諸学会出席のための国内旅費として計上していた額の一部や備品・消耗品購入を減らし当該海外旅費の増額分に充てた。
 例えば、音楽療法の楽器類を購入予定であったが、研究代表者、分担者および協力者から私物を譲り受け、また、その他、予定のソフトウェアは一部現有のソフトで代用し、プリンターインクなどの消耗品も紙媒体への印刷を極力減らして購入量を減らす等を行ったため、予算流用に伴う研究計画への影響は発生しなかった。

また当該海外視察を行うことで、当初訪問予定であったオーストラリアメルボルン大学視察の目的である幼小児難聴の人工内耳等の治療前後の多職種連携による療育システムについても、上記のようにより豊富な情報収集が可能となり、研究計画の遂行には問題は発生しなかった。またアメリカの機関を視察することで、より大学と療育専門施設との緊密な連携を直接視察できた結果、研究の進捗を図ることができ、研究にはむしろ好影響であった。

ベトナムホーチミン市で開催されたIFOS Otology Course(世界耳鼻咽喉科学会 耳科学講座)についても、研究成果発表を行い、また世界各国の新生児聴覚スクリーニングのシステムや人工内耳手術の低年齢化やそれに際しての微細手術解剖についての情報を得ることができ、研究進捗に寄与した。